

ほうれん草栽培についての

二、三の問題

花岡保

ほうれん草は栄養蔬菜として、常にわれわれの日常生活に切り離されないものの一つ

生産地帯も見受けられるのであります。しかしるに夏期における品薄期には適品として、「ニンゲンゲンアーヴィング」、「バン

つであるが、また栽培者としては播種後〇日乃至四〇日経過すれば間引株から順次収穫出荷ができる極く短期間経営作物でもあります。従つて、周年作付する事により冬期間を除く農期はもちろん、冬期間の一部も合理的な貯藏方法を考え、四季新鮮上質の品を確保できるのである。

本道における早春の栽培実験について
はすでに試験成績が発表され、秋播越冬栽培
が各地で行われ、伊達地方のように特殊

第一表 播種後三十八日目における作物の状況

耐 病 性	生育 状 况	抽 薹 状 況		草 丈 (釐)	莖 部 重 率 (%)	播 種 期	
		葉 重 (瓦)	葉 長 (釐)			五月 五日	六月 五日
耐病性	生育状况	葉重(瓦)	葉長(釐)	草丈(釐)	莖部重率(%)	五月五日	六月五日
欠株率(%)		一三〇	二四〇	二三四	三四三	五月五日	六月五日
		二六〇	二七〇	二五六	二六六	五月五日	七月五日
		三六〇	三七〇	三五七	三九五	五月五日	八月五日
		五〇	七〇	二七	〇六	〇〇	九月五日
		七〇	九〇	一七	一〇	〇〇	
		九〇	一〇	一七	一〇	〇〇	

生育は六月が最も旺盛で、七月はやや低下し、八月に至れば抽薹並びに生育はさらに衰える

であり、同表によれば黒ビニールによ
り略々完全に抽薹は抑制できるが、よ
しらず二枚を重複使用した場合は相当高

第三表は黒ビニール、よしずの九時間短日処理（夕方五時から翌朝八時ま

誘発されるとすれば、集約的に黒ビニール、よしす、ござ等を利用し遮光、短日処理により栽培が有利に行われないかという事も考えられてきます。

ハイキングおよびキャンプテンマークの夏期における利用の意義が認められるのであります。

よれば、抽薹のし易い品種を順次整理したものであります。が、東洋種、洋種、並
不抽薹系品種の概要がわかり、中でも

は春の彼岸に始まり夏至に最も甚だし
の彼岸に終るのであります。

備考 一 数値は昭和二十七(一九五二)年
収量比は「札幌大葉」を一百
播種は四月下旬、抽薹率

第三主

率重部茎 (%)	丈 (梗)	草 (梗)	項目	
			区別	播種期
自 然	黒ビニール遮光区	黒ビニール遮光区	四月 三日	五月 六日
よ し ず	遮光区	よし ず遮光区	五月 三日	五月 六日
然	区	然区	五月 三日	五月 六日
七 二 三	四 二 一	一 六 〇	四月 三日	五月 六日
九 五 七	五 三 七	七 六 一	五月 三日	五月 六日
一 〇 八	五 一 一	一 七 七	五月 三日	五月 六日

三二
よしずは二枚を重複した。
昭和二十八年度成績（調査日は四月
九日。五月区は六月五日、六月区は七月

第二表 ほうれん草の春播における品種間差異

品種名							項目	
取量比 (%)							抽薹率 (%)	
5 次	4 豊	3 東	2 日	1 若				
郎								
丸								
葉								
湖								
來								
草								
八	九	九	九	九				
七	六	五	四	三				
六	五	四	三	二				
五	四	三	二	一				
四	三	二	一	一				
三	二	一	一	一				
二	一	一	一	一				
一	一	一	一	一				
10 小	9 檜	8 ビ	7 ロ	6 ロ				
樽	樽	ロ	ラ	ミン				
在	在	ビ	ラン	イン				
來	來	フレ	ダ	スタ				
一	一	一	一	グ				
六	五	四	三	二				
三	二	一	一	一				
九	八	七	六	五				
七	六	五	四	三				
五	四	三	二	一				
三	二	一	一	一				
一	一	一	一	一				
15 デ	14 キ	13 ベ	12 イ	11 ノ	札幌	大葉	品種名	項目
キ	ベ	イ	ウ	リ	幌	葉		
ン	ン	ン	ン	ク	大			
マ	イ	イ	ク	クリ				
ー	ー	ー	ー	ー				
ク	ク	ク	ク	ク				
一	一	一	一	一				
六	五	四	三	二				
四	三	二	一	一				
二	一	一	一	一				
一	一	一	一	一				
0	0	0	0	0				

